

なんかおかしい 飽きたかも

暮れに、熊本大学の研究室のモチツキに参加した。一人の男子学生のファッションが奮っていた。Gパンがズリ落ちそうになって半ケツ以上の面積のパンツが見えているのに、直そうとしない。パンツの色はグレー。本人のセンスでは、幸田來未と同じつもりのようだが、女子からは、セクハラだとブーイングである。“エロかわいい”こともないし、汚いから当然だ。でも、結局、半ケツ出したままモチツキ大会は楽しく継続され、無事終了した。って、「おい、後輩たち。それじゃいかんやろー。上げさせえよ、Gパンを！ なんかおかしいぞー、君たち。」

大晦日恒例のNHK紅白歌合戦は、裏番組のお笑いや格闘技に食われ、年々視聴率が低下している。昨年は、みのもんたが司会をしたし、ユーミンが上海でライブやったし、結構頑張った。紅白自体、年々洗練された商品に進化している。しかし、男女交互に歌で競うという「ショーの基本構造」は全く変わっていない。NHK自身、これをどう変えればいいのか分からない状態だろう。視聴者にも、紅白に期待することが分からない。ただ飽き続けている、というところだろう。いっそのこと、“紅白”や“合戦”の名を棄てたらどうか。

昨年は、紅白の後半途中で歯を磨いて寝た。ちょっとザッピングした裏番組で、ボビーが曙に判定勝ちしたところを見てしまい、なんだか、どうしようもない気持ちになったからだ。

そもそも、大晦日のテレビで、ガチンコの喧嘩ショーが高視聴率をとること自体、この国はまともなのかと心配していたところに、最近、狂言師の和泉元彌がリングに上がっていると聞く。実際に見たことはないが、必殺技はモトヤチョップ、セコンドは姉だという。結局、格闘技はガチンコではなく狂言であることが決定的となったわけだが、やっぱりなんかおかしい。和泉元彌がチョップを繰り出すのは、裏千家がメイド喫茶を開くようなものじゃないのか？

メイド喫茶といえば、熊本にもあるらしい。アルバイト学生からの情報である。この学生に、20年くらい前、ノーパン喫茶というのがあったことを話して聞かせると、「ノーパンは異常でメイドは健全だ」という評価だった。私も一瞬そうだと思ったが、どちらかと言えば、メイド姿の女の子に萌えているヤツの方がアブナイんじゃないか？（五十歩百歩だけど）・・・そう、絶対にそう。私の判断基準が正しい！ 「おい、アルバイト君。君はおかしいぞ。」

半ケツ男とフツーにモチツキをして、萌えるけど燃えない男が身近にいてもフツーにいるためには、どうすればよいか。一つは、普通以上のことを、フツー、と言うこと。フツーに（かなり）美味しい、とか。最近、よく耳にする。もう一つは、全く新しいものに対しても最初から半分飽きていること。どこかで飽きたと感じていれば、半ケツ男も、慣れているような気がしてくる。最近の子どもに感じる違和感は、この“飽きた感”の差かもしれない。しかし、現実社会で起きていることは、ボビーの判定勝ちどころではない、ホリエモンがフジを食うようなことだ。これからの社会、自分の名を棄てるくらいの覚悟が必要だ。半分飽きたなんて感じないヤツが、ガンガン飛ばしていく。あの半ケツ野郎にも、ガンガンいかれるかもしれない。よし、そうだ今日は「チャングムの誓い」見て、白菜の漬物で白ご飯を食べて元気出そう！？